

南方系毒貝に注意

白浜の海岸で発見

毒貝として有名なイモガイの仲間「タガヤサンミナシガイ」が白浜町臨海の海岸で捕獲された。見つけた京都大学瀬戸臨海実験所の久保田信准教授(56)は「刺されると死ぬ可能性もある。見つけても素手で触らないように」と呼び掛けている。京都大学白浜水族館で飼育展示を始めた。発見されたのは殻長72ミ、幅35ミの成貝。タガヤサンミナシガイは、紀伊半島を北限とする南方系貝で、紀南地方

ではそれほど多くない。貝殻の表面には山形模様がうろこ状に重なり、表面に光沢があつてきれいなため、マニアが捕獲する場合があるという。肉食性で主に貝類を食べている。引っ込んでいる口を突き出し、その先端に並んでいる矢のような歯(矢舌)を獲物に突き刺す。毒性は、毒貝として有名なアンボイナよりやや弱いと言われるが、刺されると激しい痛みが起り、患部からしびれが口や手足に広がる。最悪の場合は死に至る。京都大学白浜水族館では、過去にアンボイナとともに貝殻を展示したことはあったが、生きのまま展示するのは初めて。



毒のあるタガヤサンミナシガイ (白浜町で)